



猪高の森自然観察だより 2025・9月号

開催日時：2025年9月28日（日）

天候：曇り時々晴（開催中） 気温：最低22.1℃、最高31.0℃
(名古屋に於いて)

参加者：10名（内NACS-J会員3名）

（左上の画像は弾けたゴンズイの実、黒いのは種。）

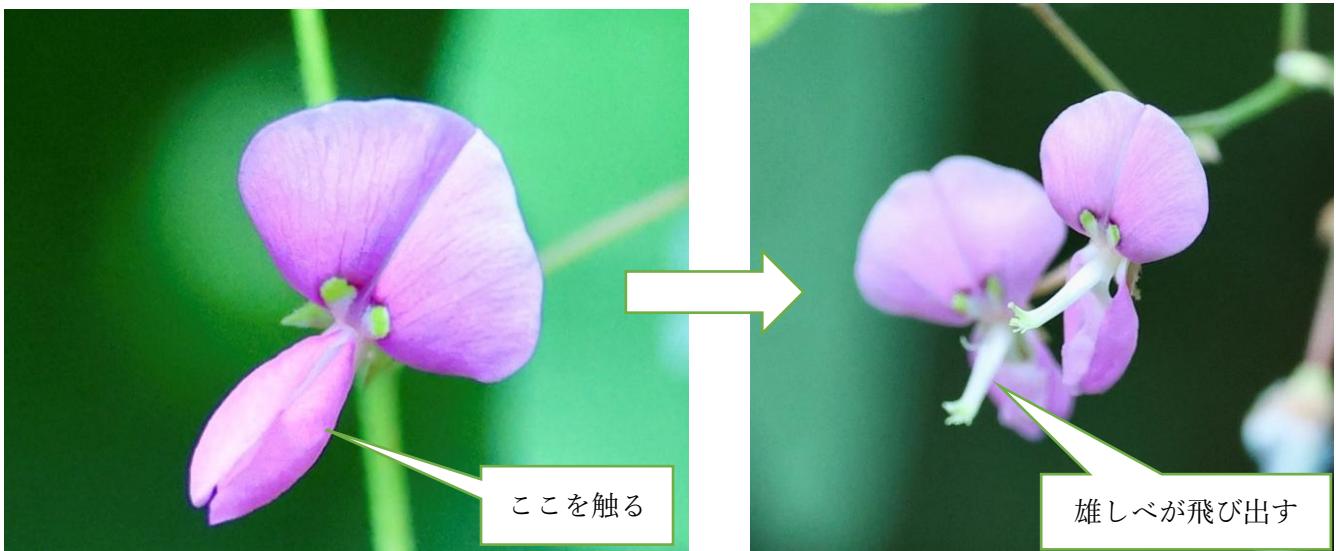
テーマ：テーマ：赤トンボの種類を調べてみよう！

コース予定：森の集会所 → 井堀の大クス → 井堀下池 → 井堀の棚田 → 復路 → 森の集会所

9月の下旬になり、やっと35℃以上の猛暑日が出ないようになってきました。日本の各地で、水害が多発し、今までの気候に対する経験が役立たなくなっています。

夏日の記録は更新中ですが、これまでの乾燥と高温で、一部の花の開花や昆虫たちの活動時期が遅れたりしているようです。

○アレチヌスピトハギの花を触ってみよう！



アレチヌスピトハギの花の舟弁（しゅうべん「竜骨弁」とも呼ばれる）を蜜を探しに来た虫の気分になってそっと触ってみましょう。

舟弁が二つに割れて、中に入っていた雄しべと雌しべが飛び出してきました。これで蜜を吸いに来たあなたの体に花粉が付きました。「別の花に行ったときに、花粉を届けてくださいね。」とアレチヌスピトハギは思っているかも知れません。

アレチヌスピトハギは北アメリカ原産の帰化植物です。日本には在来の「ヌスピトハギ」があります。この2種は微妙に住み分けをしていて、日当たりの良い乾いたところにはアレチヌスピトハギ、半日陰の適度な水分を確保できるところにはヌスピトハギが生えています。

○ヤブミョウガが青い実をつけています。さて、中身はどうなっているでしょう？



種の形はいろいろ。
1目盛りは1mm。

中身は種がぎっしり！
でも、よく見てください。結構不定形です。四角形あり、三角形ありです。おまけに、どれにも丸いくぼみがついています。

球形の実に種がぎっしりだと、当然不定形になりますが、それでよいのですか？ 発芽率は大丈夫ですか？ とヤブミョウガに問い合わせたいくらいです。それに、丸いくぼみの役割は？ 実の中で栄養を送るための管がつながっていた跡？

わからないことだらけです。

○ヌルデノミミフシを見つけました。



虫こぶのヌルデノミミフシ。
昨年も同じ木についていました。
全く見られない木もあります。

ヌルデノミミフシは昔の化粧品(?)：お歯黒の原料のひとつ。タンニンを大量に含んでいます。原因となった虫たちは何処にいるでしょうか？ 割ってみると…。



黄色の粒々は全てアブラムシです。

ヌルデノミミフシは、ヌルデシロアブラムシが作る虫こぶです。この虫の生活サイクルは結構複雑で、冬はチョウチンゴケの仲間に移動します。今回は黄色の幼虫が中にいましたが、もう少し後になると、翅の生えた灰色の有翅形の成虫がいるようになるとのことです。

生活サイクルについてはいくつかのサイトで紹介されていますので、ご覧になってください。

○ヒメジソ？イヌコウジュ？どっち？



それは、棚田のエリアのメダカ池から横道に入り、少し行ったところに生えていました。

- 1, 葉の鋸歯の数は「ヒメジソ」
- 2, 花の色は「ヒメジソ」
- 3, 毛の多少は判断付かず
- 4, 茎などの色は「ヒメジソ」
- 5, ガクの形は判断付かず
- 6, 香りは「イヌコウジュ」

でした。

はてさて、あなたならどうします？

「ヒメジソやイヌコウジュの仲間」とすれば間違いないでしょう。

植物を同定していくと、このようなことはよくあります。「幹にコルク質が発達していないのに、アベマキの葉がついていたり」「スダジイとツブラジイの中間のような姿をしていたり」、さらに本を見ていくと、著者によって見解が分かれていたり、年代によって変わっていたりします。

最近は、遺伝子を中心に分類するAPG分類が行われて、同じ条件の下で判断することができるようになってきましたが、すべての個体についてはとてもできません。

同じ遺伝子でも環境によって表に現われる形質が異なってくる「表現型の可塑性」なんて言うものもあります。

植物の同定は中々一筋縄ではいきません。

○「マユタテアカネ」はこんなトンボです。



赤トンボの仲間で、よく見られる種類が、「マユタテアカネ」です。顔にはつきりとした眉のような1対の斑紋があります。マイコアカネも同じような斑紋が出ることがあり、その時は、胸側面の黒条の有無や腹部先端の形などで判断します。冬の初め頃まで見られますので、同定を挑戦してみては。

○ノウタケがいっぱい生えていました



横に置いてあるメジャーは10cmあります。中央が割れていたので、中を覗いてみるとキノコムシの仲間がぞろぞろといました。老菌になると、穴の開いた古いスポンジのような見た目になり、つつくと胞子が飛び出でてくること。食用になるのは、若い時のみ、です。

○朽木をひっくり返してみると。



いました、いました、今年生まれたカブトムシの幼虫たちです。

隣の朽木には 1 匹もいませんでした。

私たちには分からぬ、適した条件があるのかもしれません。

画像を撮った後は、そっと元に戻しました。

「明るくしてしまってごめんなさい。」

○棚田のあぜ道はカエルがピョンピョン！



ニホンアカガエル



トノサマガエル

この棚田は、無農薬・無化成肥料で管理されています。

その為、いろいろな生き物たちが見られます。下見のときも加えると、カエルだけでもウシガエル、トノサマガエ

ル、ニホンアカガエル、ヌマガエルの4種が見られました。でも、もっと多くの種のカエルたちが生きています。

生きもの一斉調査の練習の場として、「カエル調査」のときには、選ばれました。数少ない多くのハビタットを備える緑地として、大事にしていければと思います。

○他に見られた生きものたち



斑入りのクサギ。高温の影響？



タマスダレ：食べると吐き気、嘔吐、痙攣を起こす。



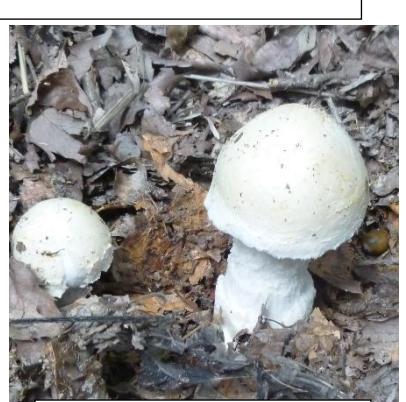
ハイイロチョッキリの落とし枝



クズの花：今年は少し遅い



スズメウリの花、実はキュウリの味



猛毒のキノコかも・・・



ヤマノイモの若い実



イボクサ：田んぼの雑草だけど可愛い花



ポンクトクタデの白い花

次回観察会は10月26日（日）森の集会所集合 9:30～です。

（雷ナウキャストにて雷発生の危険のある場合は中止）

名東自然俱楽部のHPでは毎月の猪高の森の自然観察会の紹介をしています。

<https://sizen.ciao.jp/>から是非ご覧になってください。

（右上の自然観察グループをクリックしてください。）